

TOREK 自然農法 ホットニュース

第 151 号 2010. 11. 25

健康な地球に生きる健全な人間の姿を求める「岡田茂吉師」が提唱した「自然農法の原理」に基づき、「無施肥無農薬栽培」を通し、生産、流通、消費者がお互いの現場を理解し合える、安全で豊かな「食」の普及に取り組んでいます。

TOREK 自然農法農産展

11月3日(祝) 展示

今回の出品者数は79名、出品作物298点。昨年の84名414点から後退しましたが、今年のお気象状態からしても、実施者それぞれ最善を尽くしての結果だったことが伺えました。

今回、稲の展示方法が昨年と変わり、圃場にあわせて穂が上になるようになっていて、より自然農法の稲穂の良さ、強さが引き立って見えるように思いました。また、りんごの無施肥無農薬栽培に取り組んでいる群馬県の中島さんのコーナーでは、りんご栽培の年間を通しての様子や、2003年からの記録が写真で紹介されていて、勉強になりました。以下、中島さんの今回の体験報告など簡単にまとめました。



中島さん

りんごは、風土や気候がまったく異なるイギリスから伝わってきたもので、日本で栽培するために農薬が多用され、一般的に無農薬栽培は不可能とされている。

中島さんは平成13年から3アールの畑を試験的に無農薬で始めた。1年目は6月に葉が落ち始め、7月には病気が広がり、8月には冬の枯れ木のようになった。なんとかついた実も表面が黒く、ジュース用にしかならなかった。2年目には花は通常の4分の1しか咲かず、8月には葉が落ち、9月には次の年に咲くはずの花が咲いてしまうという考えられない状況に。それでも中島さんは初心に戻ったつもりで取り組む決意をする。目に見えない土の中の力を信じ、りんごの木1本1本にふれ、元気になってくれと思いを込め声をかけ続けた。そして平成21年春、喜ぶべきことに、3割ほどの花が咲き、

花摘みや袋かけ、摘果などの作業をすることができ、秋には収穫をすることができた。

無施肥無農薬栽培を始めたころは、周囲に批判されたが、りんごを食べて喜んでくれる人、応援してくれる人もいた。自閉症で言葉が発せないお子さんが、りんごジュースを飲んで「おいしい」と両親と話せるようになった、りんごに囲まれて育った方が、近くのりんごを食すと髪の毛が逆立ってしまう、肝臓や脾臓も悪くなっていたが、中島さんのりんごは髪の毛も逆立たないし、肝機能も良い、和歌山のがん患者さんは、市販のりんごを口にすると吐いてしまうが、中島さんのりんごは「おいしい」と喜んでくれた、などの声に励まされた。

本当の意味で、植物が健康に育つことと、人間の体が健康になることは同じだということが分かった。これからも、今まで以上にりんごの木の思いになって、信念を持ち続け、良いエネルギーを内在したパワーのあるりんご作りをしていきたい。



貴重な自然農法のりんご

11月21日(日) 販売

農産展販売日、生産者から「消費者と話ができてうれしかった」「やる気が湧いてきた」など、消費者からは「楽しみにしていたお菓子が買えた」「トン汁が最高においしい」「生産者と声を交わってよかった」など言葉が聞けて、生産者と消費者を結びつける、活気と笑顔の絶えない場となりました。



石川県からはるばる新米を販売に来てくださった森さんと山下さん。森さんの、苗から無施肥で育てた「完全無施肥」の貴重なモチ米が3袋限定販売、しっかり買いました。山下さんも今年から年間予約販売を始めています。ますます今後期待です！



山下さんと森さん

埼玉にて畑作交流会

10月24日に畑作交流会を、新潟の飯塚さん、長野の堀さん、千葉の渡来さん、金野さん、TOREK 自然農法普及員の野中さんと私の6名で行いました。まず狭山の弥生会の畑を見学しました。その日は、ちょうどサツマイモの収穫にあたり、豊作に喜ぶ青年の顔を見て、「感動した」「いいものを見せてもらった」など言い合い、またサツマイモの育て方を青年にアドバイスするなど、皆さん青年を叱咤激励していました。



それから埼玉牧場でお昼を食べて、そこでは、先人の方の自然農法に対する思いや努力、例えば「橋の下で寝ても、自然農法を普及しようと思って取り組んだ」などの話が出て、涙が出てしまいました。その後、宿舎の会議室に行き、畑作のこと、作物の販売についての話も出ました。消費者の作物を食べた感動というのは、いつまでも残る、「またあれを食べたい」という感動から、販売促進につながる、しかし、今は一から調理をする人が減ってきているのも事実、我々が自然農法の作物の素晴らしさを伝えて行かなければいけないと。

その他には、自家採種をみんなで分担して取り組むこと、それぞれの畑で学んだことや、大切だと思ったことをレポートにして発表しあう、そして、TOREK 自然農法活動の一つの目標年である2015年に向けて、どうしていくか、この会合を何回か持つなど、有意義な話し合いができました。(針貝広明)



自然農法頒布会の魅力

10月31日、東中野で自然農法頒布会が開催されました。朝から野菜を持って路上に出してお知らせすると、「自然の野菜」という言葉や野菜に反応して近寄ってくる方、「行きたいです。場所どこですか?」とか、「今日は仕事で行けないので、この場で販売して欲しい」など、関心の高さを感じました。

会場では販売とともに、有機栽培、慣行栽培とのにおい比べや、山本養鶏場の鶏がらと、市販の鶏の骨を瓶に入れ4年経過したものを見比べ、瓶を振って骨と瓶がぶつかる音の違いを体験していただきました。無ワクチン、薬剤不使用の鶏の骨は白く、骨密度の高い音がしました。市販の鶏の骨は黒っぽく変色し、スカスカな低い音がしました。薬の残留が骨にあることをまざまざと見せられました。

数年前の頒布会にいらした方が「以前購入した胡麻が欲しい。あの胡麻を食べたら他のは食べられない」とお友達を連れてきたり、ご近所の常連さんは、今回初めて生産者と会い、農業現場のお話や農薬飛散について質問したりしていました。いらした方の喜びや驚きの表情、会話を通して、無施肥無農薬栽培の農産物の必要性や魅力を改めて実感しました。(頒布会スタッフ藤井)

お知らせ

自然農法頒布会

12月19日(日) 東中野会場 10:00~ (売り切れ次第終了)
一人でも多くの方にお知らせし、無施肥無農薬栽培の農産物によって、健康で心穏やかな生活が送れるようになっていただきたいと願っています。ぜひ、会場に来て、見て、感じて、味わってください。お待ちしております!

12月26日(日) 鎌ヶ谷会場 11:00~ (売り切れ次第終了)



11月23日 鎌ヶ谷学生体験学習

無施肥無農薬栽培物の販売予定

生産者の方々が直接販売されます。

12月3日

於：伊都能売会館
東京都八王子市長房町57 042-665-6369

- きじま平自然農産：ダイコン、カブ、しろ菜、きじま弁当
- 飯塚農園：みそ
- 長柄山自然農園：卵、シイタケ、鶏ガラ
- よしたい農園：モチ米
- 市川生産グループ：煎茶、ほうじ茶(みかんの宅配受付)
- 中島農園：ジャガイモ、コマツナ、下仁田ネギ、長ネギ、ダイコン
- ジョリフィーユ：かぼちゃのモンブラン、プリン、マドレーヌ ほか

お問い合わせ先：編集部 針貝 FAX: 03-3369-3324 e-mail: naturefarming@torek.jp
TOREK活動のホームページもご覧ください。 http://www.torek.jp